

“町”から“市”へ！発展し続ける阿見！！

動機

- ・母に「阿見町が阿見市になるかも！」と言われた記憶があり、それについてどんな経緯があるのか気になったから。
- ・友達に「阿見町に住んでる」と言うとき「どこ？」と返されることがあり、これを調べることで阿見町の認知度UPに繋がればいいなと思ったから。

目的

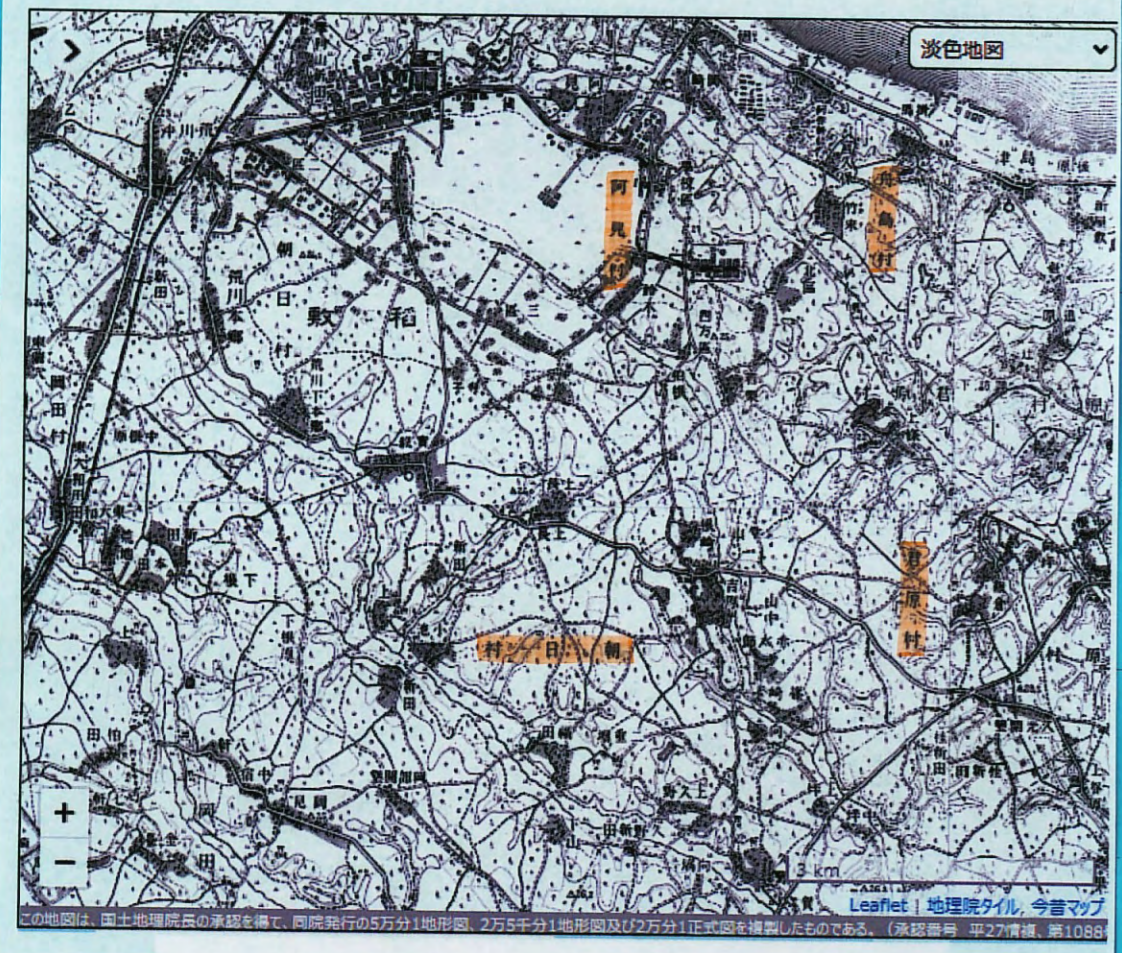
阿見町の人口推移にどんな環境の変化が関係しているかを調べ、その変化を知ってもらい、阿見町の認知度を上げる。

調査方法

- ・役場の人に、どこがどのように変化したのかを聞き、「変化する前」と「変化した後」のその場所の地図を取得する。
- ・変化した前後の地図を比べ、変化した部分を調べ、現地調査により発展している部分を確認する。

人口増加の要因3つ！！

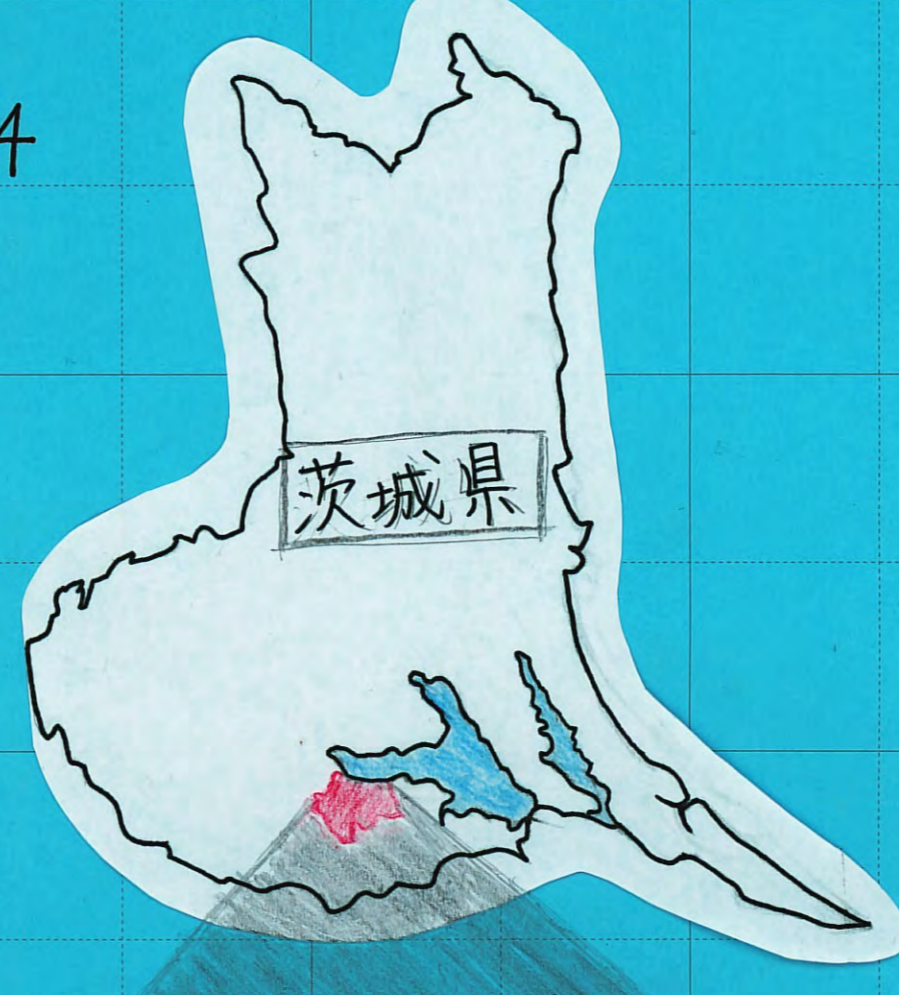
1. 4つの町村が合併して現在の阿見町に！！



合併前(1928~1945年)



現在の阿見町



茨城県



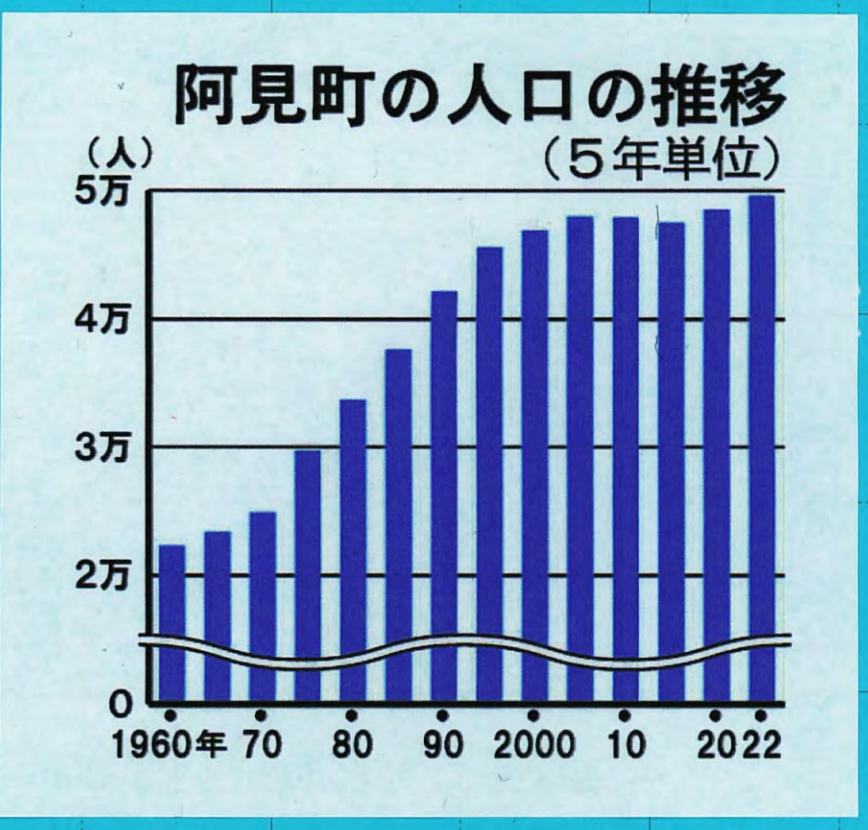
阿見町

あかプラザ アウトレット

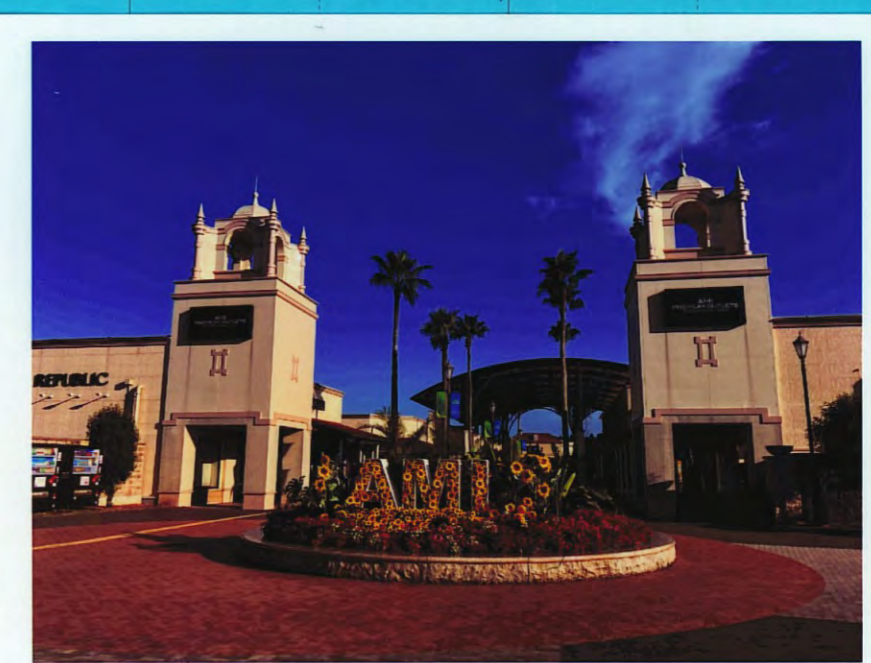
2. よしわらのシンボル、アウトレット完成！！

2003(平成15)年から施行された、阿見吉原土地区画整理により、吉原地区全体が土地開発された。その後、2009年7月にあかプラザ・アウトレットが開業。→周辺の住宅地の造成が進む。→若い世代が住みやすくなる。

アウトレットは、吉原のシンボルであるとともに、阿見町のシンボルとも言えるほど阿見町にとって誇れる商業施設である。



アウトレット建設前(1928~1945年)



周りの雰囲気とは全く違い、洋風の雰囲気を味わうことができる。店舗数も多く、人が集まる場所となっていた。



現在の吉原地区

3. JR開通！都市部へ行ける荒川沖駅！！

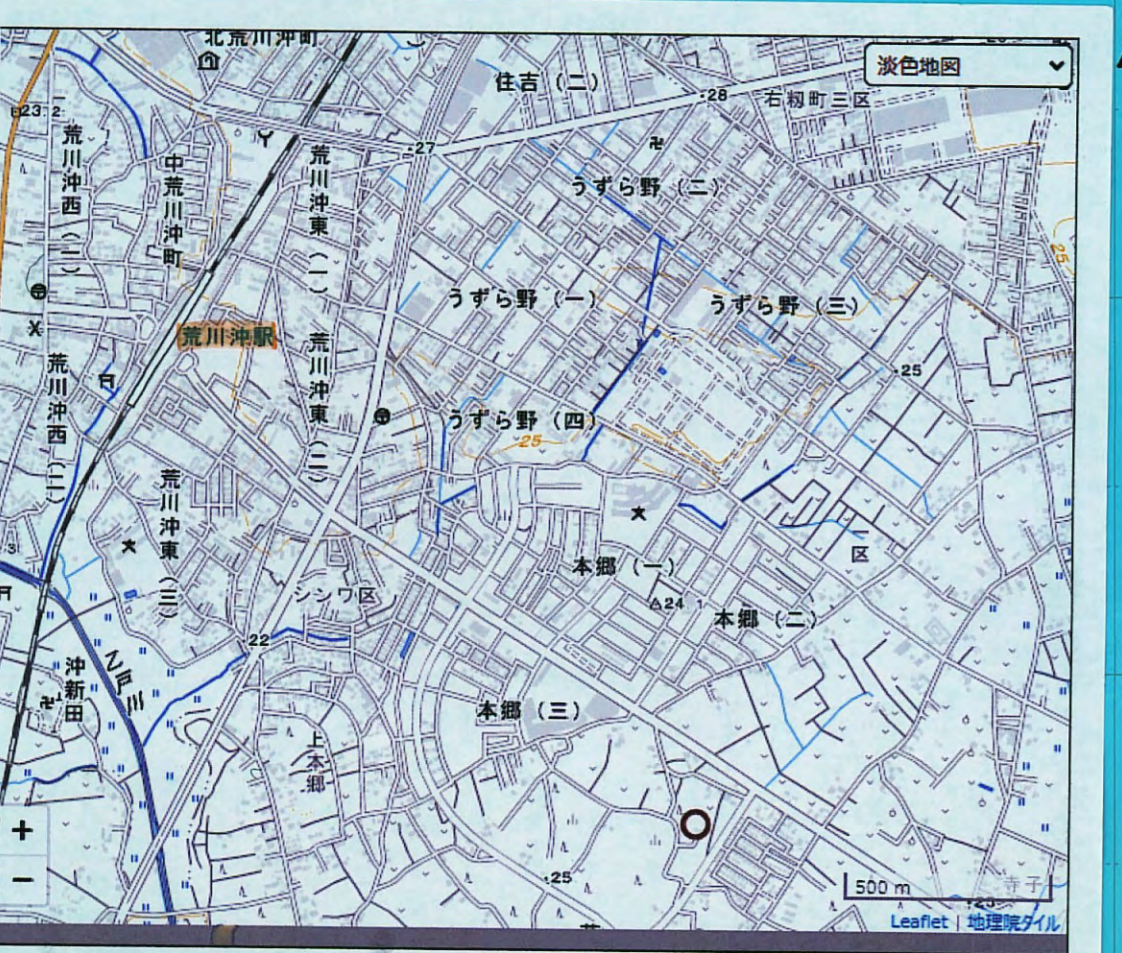


JR開通直後(1894~1915年)

1896(明治29)年 →隣接する土浦市に荒川沖駅ができ、交通アクセスが便利に。

阿見町周辺には駅がなかったため、電車が使えることにより、気軽に遠出ができるようになった。阿見町の玄関口の1つでもあり、県外からの利用者も多い。

近くの区画整理地区「オルティエ本郷」を中心に、住宅地、商業施設や幼稚園・保育所、医療施設が近接。県道25号線や学園東大通りへのアクセスも良いため、土浦市、つくば市、牛久市などの他に、都市部まで通勤や通学に便利なエリアとなっている。



現在の荒川沖駅周辺



古くにつくられたため、西口のみの出入り口と西口のみの出入り口のみで出入りする。田舎の雰囲気の手まりであることがポイント。人の行き来は少ないが、駅に着くバスがあり、通勤・通学には便利。

考察

阿見町の人口増加には、4つの町村の合併、土地開発に伴うアウトレットの建設、JR開通による荒川沖駅付近の住宅地増加の主に3つの要因が関係していると分かった。

過去と現在の地図を比べると、区画整理されたところが多く、町の人にとりて住みやすい環境に改善されていた。それに対し、川や田は全て埋め立てられるのではなく、川幅を狭めるなど、自然を残しながら整備が進められていることが分かった。

現在、阿見町では「小学校入学時にランドセル提供」や「18歳まで医療費無料」という若い世代向けの制度がつけられているため、ますます人口増加が進むことが期待される。

また、市制には住んでいる人の意志も重要となるため、今後、アンケート調査が行われ、結果をもとに「阿見市」になるかが決まると考えられる。

参考文献

- ・阿見町役場 政策企画課 松本さん 系賀さん
- ・時系列地形図閲覧サイト「今昔マップ on the web」 埼玉大学教育学部 谷謙二
- ・わたしたちのあみ 阿見町教育委員会 令和3年4月1日改訂版発行
- ・茨城新聞 クロスアイ 2023年1月20日